



認定NPO法人 **たまりば**
フリースペース Since 1991

子どものいのちをつなぐ居場所
<https://www.tamariba.org>



- 渋谷から(30分)
東急田園都市線渋谷の口駅より
- 新宿から(35分)
小田急線登戸駅より
- 横浜から(30分)
東急東横線武蔵小杉駅より



津田山
川崎市子ども夢パーク
フリースペースえん
〒213-0033 川崎市高津区下作延 5-30-1
●JR南武線津田山駅徒歩約 5 分



久地
コミュニティースペース
えんくる
〒214-0021 川崎市多摩区宿河原 6-26-24
フジビル 1階
●JR南武線久地駅徒歩約 3 分
線路脇の細い道に入る



「生きている」
ただそれだけで祝福される
そんな場所をみんなでつくっていきたい

子どもの「いのち」を真ん中におき

「子どもの最善の利益はなにか」を私たちは問い合わせてきました。
既成の制度や仕組みに子どもをむりやりあわせるのではなく、
子どもの「いのち」のほうへ制度や仕組みを引き寄せたい。
私たちはそう考えています。

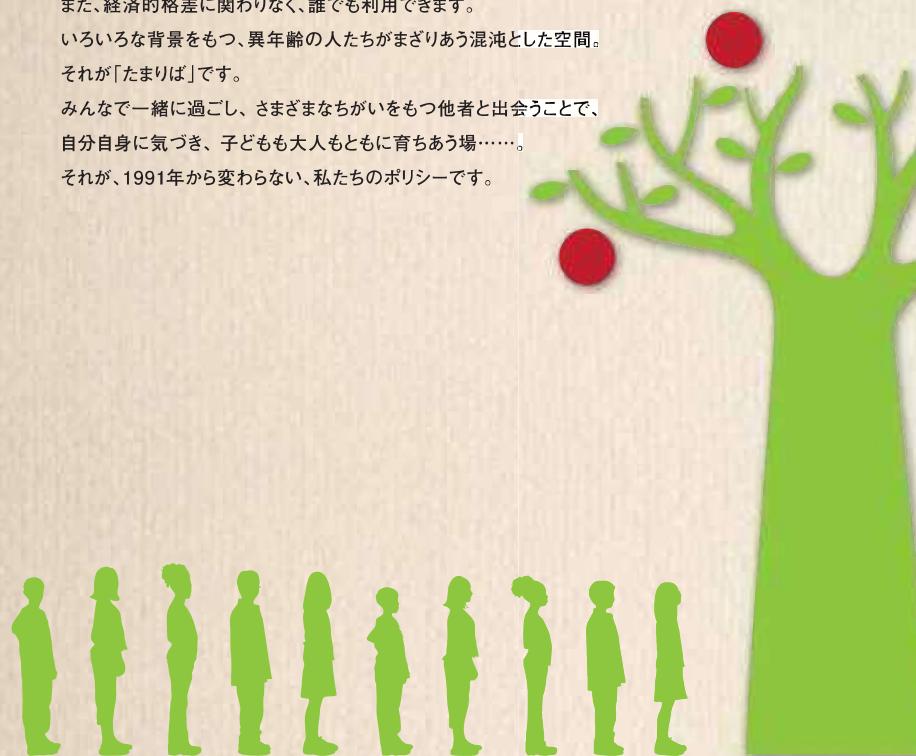


ここで大切にしたいのは日々の「くらし」です。

毎日、昼食をつくり、食卓を囲んでみんなで食べます。
畑で野菜を収穫し、買い物に行き、協力してつくります。
「おいしい・うれしい・たのしい」でつながる仲間たち。
「ひとりじゃない」……そこから安心が生まれます。

誰ひとり取り残さない居場所づくり。

国籍や肌の色、「障がい」のあるなしを、ここで問われることはあります。
また、経済的格差に関わりなく、誰でも利用できます。
いろいろな背景をもつ、異年齢の人たちがまざりあう混沌とした空間。
それが「たまりば」です。
みんなで一緒に過ごし、さまざまちがいをもつ他者と出会うことで、
自分自身に気づき、子どもも大人もともに育ちあう場……。
それが、1991年から変わらない、私たちのポリシーです。



子どもから大人まで、毎日30~40人が
一緒に食卓を囲みます。まるで大家族のよう。

ひとりひとりが主役。
「私が大事。
「私」と「私」がつながって
みんなのなかに
「安心」が生まれていきます。



子どもたちは、いま…

「フリースペースたまりば」は1991年、学校や家庭・地域の中に自分の「居場所」を見いだせない子どもや若者たちが集う「学校外の育ちと学びの場」としてはじめました。

あれから30年が経ちますが、不登校・ひきこもり、子ども・若者の自死、子どもの貧困など、子どもたちを取り巻く問題はなくなることがありません。

長年子どもたちと関わる中で感じているのは、子どもたちの自信のなさです。「ぼくバカだもん」「わたしダメだもん」…そう口にする子どもたちにたくさん出会ってきました。自己肯定感の低さが日本の子どもたちの特徴であり、私たちがきちんと向き合わなければならぬ大きな課題であります。

私たちがめざす

「居場所」のありかたとは…

いま大人たちは、子どもに失敗させまいと先回りしてレールを敷き、子どもたちがやってみたいことに挑戦する機会を奪っています。

つねに他者からの評価にさらされる子どもたちは、自分の頭で考え、自分でのことを決定する経験がとても不足しています。

私たちが大事にしているのは「やってみたいことにチャレンジする機会」と「安心して失敗できる環境づくり」です。

そのためには、なにが「できる」とか「する」(do)よりも、「ある・存在する」(be)に光をあてることが必要です。

目前のことととらわれず、長いスパンで子どもの育ちを考え、寄り添い続けるまなざしが求められています。そのまなざしの中で、一人ひとりが他者とのつながりを実感し、いろいろな体験を重ね、
……自分はここにいていい。ひとりじゃない。

……自分には生きている価値がある。と思える、自己肯定感や自尊感情を育むことが、とても大切だと考えています。

私が「大切な存在」だと思ったとき、「大切な誰か」とつながっていく。それは子ども・若者だけでなく、私たちの社会全体に必要なことではないでしょうか。



だいじょうぶのタネをまこう

フリースペースたまりばは、1991年、川崎市高津区の多摩川のほとりの小さなアパートで産声をあげました。子どもたちと毎日遊んだ川の名にちなんで、「たまりば」と名づけました。

最初に来た子どもたちがやったことは、押入れの天井の板を外し、クモの巣がかかった天井裏に立てこもることでした。2週間経ってのぞかせてもらうと、ピースをしながら微笑む少女たちの顔。「ここが私たちの居場所よ」。おとなが差し出す一切の支援を拒むかのような強さ、決意のようなものを感じました。

消え入りそうの炎を再び輝かせるには、まずはたっぷりとした「子どもの時間」を取り戻すこと。おとなが決めたカリキュラムを押し付けるのではなく、迷いながら揺れ動く子どもの「いのち」に寄りそうこと。いま目の前の子どもの「ありのままで」しっかりと受けとめることの大切さを、子どもたちから教わりました。これが私たちの活動の原点となっています。

私たち大人に求められることは、子どもを見守る「肯定的なまなざし」と子どもの力を信じ、好奇心の芽をつなないすこと。これからも川崎の地から全国いたるところに、「だいじょうぶのタネ」をまいていきたいと思います。

理事長
西野 博之



川崎市子ども権利条例 第27条「子どもの居場所」

子どもには、ありのままの自分でいること、休息して自分を取り戻すこと、自由に遊び、若しくは活動すること又は安心して人間関係をつくり合うことができる場所(以下、「居場所」という)が大切であることを考慮し、市は居場所についての考え方の普及並びに居場所の確保及びその存続に努めるものとする。

History

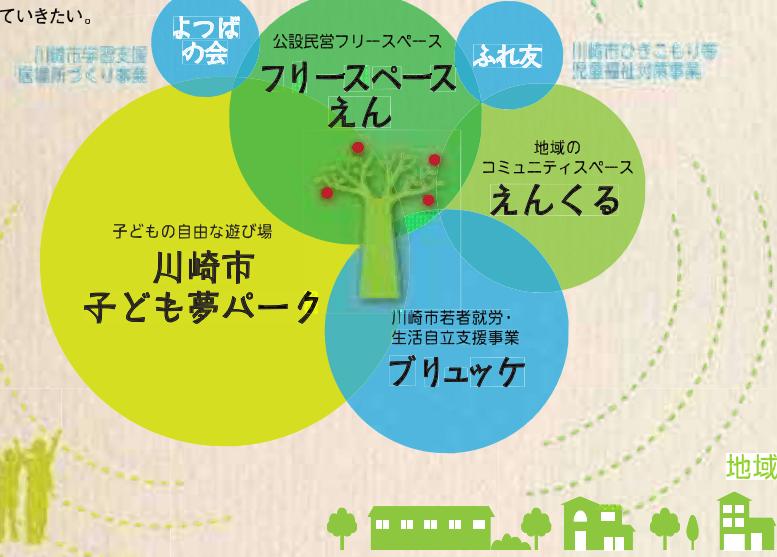
- 1991年度 ●自分の「居場所」を見出せない子どもや若者たちが集まるフリースペースとして川崎市高津区諏訪の多摩川(タマリバー)のほとりでスタート。
- 1994年度 ●同区内の久地に移転。
- 2000年度 ●第13回神奈川地域社会事業賞受賞。
- 2001年度 ●神奈川ボランタリー活動推進基金21「奨励賞」受賞。
- 2003年度 ●NPO法人設立。7月「川崎市子ども夢パーク」オープン。同内「フリースペースえん」の運営を川崎市より受託。
- 2004年度 ●第57回神奈川県県民功労者表彰受賞。
- 2006年度 ●指定管理者として、(財)川崎市生涯学習財団とともに「川崎市子ども夢パーク」全体を管理・運営。「たまりば15周年を祝う会」開催。
- 2011年度 ●たまりば20周年記念コンサート&フェスティバルを開催。
- 2013年度 ●川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん「10周年」「川崎市学習支援・居場所づくり事業」を受託。
- 2014年度 ●川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」の開設・運営、川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業」を受託。文部科学大臣が「フリースペースえん」を視察。
- 2015年度 ●理事長・西野が川崎市社会福祉事業功労者(市長表彰)を受賞。また、フリースクール等に関する検討会議(文部科学省)の委員となる。
- 2016年度 ●たまりば25周年記念シンポジウム「ともに生き、ともに学ぶ」を開催。
- 2020年度 ●フードバンチャーを備えたまちのひろば「コミュニティスペースえんぐる」開設。
- 2021年度 ●ブリュッケが事業拡大・移転。「川崎若者就労・生活自立支援事業」と名称変更。

Awards

- フリースペースたまりば
- 1997年度 「生活クラブ神奈川」'97 キララ賞受賞
- 2000年度 第13回神奈川地域社会事業賞受賞
- 2001年度 神奈川ボランタリー活動推進基金21「奨励賞」受賞
- 2004年度 第57回神奈川県県民功労者表彰受賞
- 2021年度 アレックディクソン賞受賞
- 理事長・西野博之
- 2015年度 川崎市社会福祉事業功労者(市長表彰)受賞
- 2018年度 神奈川県弁護士会人権賞受賞
- 2019年度 川崎市社会功労賞受賞

私たちがつくる居場所

くじけなさなど、弱った心を支えてくれる場所。
何かをやりたいとき、思い切り表現できる場所。
困ったとき、助けてくれる誰かのいる場所。
支えられ、支え、面倒をかけ、面倒をかけられ、
笑って、泣いて、喜んで……。
そんな居場所をつくりたい。



川崎市学習支援居場所づくり事業 よつばの会

川崎市内の生活保護世帯やひとり親世帯などの子どもたちを中心に、高校進学等をめざして、週2回夕方から、子ども夢パークの中で、スタッフや大学生と一緒に無料学習会を行っています。学習時間の合間にはしばしの休憩時間があり、みんなで談笑したり、悩み相談をしたりして、ゆったりした時間を過ごします。また、小腹を満たすために、軽食を食べることも。

川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業 ふれあい心の友

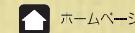
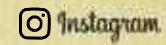
川崎市内の児童相談所との関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある子どもたち（18歳未満、主に小中学生）を対象に個別活動・グループ活動を行っています。個別活動では、登録者（主に大学生）が各児童相談所内で子どもたちに寄り添いながら、一緒にいろいろな話をしたり、子どもが望んだ勉強をしたりして過ごします。グループ活動では、スタッフとボランティアが各児童相談所に赴き、通ってくる子どもたちとゲーム、工作、料理などをしながら一緒に活動しています。

川崎市子ども夢パーク 管理・運営

〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1

JR 南武線津田山駅徒歩5分 ☎ 044-811-2001

■ <https://www.yumepark.net/>



敷地面積 10,000 m²

開所時間 9:00～21:00

大人が主導するプログラムや
営利を目的とした活動以外なら
誰でも利用可能

川崎市では、「川崎市子ども権利条例」が2000年に成立しました。これは、子どもを一人の人間として尊重し、子どもの権利を守り、子どもが自分らしく生きていくことを支えるために作られたもの。この条例の具現化を目指した「川崎市子ども夢パーク」が、2003年にオープンしました。



ケガと弁当は自分持ち

「～禁止」のない遊び場

「自分の責任で自由に遊ぶ」を合い言葉に、
自分の限界にも挑戦できる。

ときどきケガもするけれど、だから身につくこと
もある。たき火や穴掘り、工作やどろ遊び。成功も
失敗も、すべてがその子自身の宝ものです。

「やってみたい」がいっぱいある場所です。



「フリースペースえん」は、主として学校の中に居場所を見つけてくる子ども・若者のための公設民営のフリースペースです。ここは来たいと思う人は誰でも通える場です。年齢や国籍、経済的状況、障がいのあるなしに関わらず、さまざまな背景を持つ子ども・若者がここに集います。この特徴は、「自分で決めるプログラム」。その日一日をどのように過ごすかは自分で自由に決めます。誰かが「やってみたい」と思ったことはみんなが参加するミーティングで提案され、「この指止まれり」方式で、仲間を集め、実現していきます。ここにやってくる子ども・若者たちが自由にデザインし、つくり出す居場所なのです。ここに集う一人ひとりがこの場のつくり手です。



誰かが「やってみたい」と思ったときに講座が生まれます。だから、そのときどきにさまざまな講座がたくさんあります。下記はほんの一例です。



利用には登録が必要です。
利用をご希望の場合は「説明会・面談」をご予約ください。
体験期間を経て、登録になります。



月曜日～金曜日
10:30～18:00
(火曜日のみ～14:00)
利用は登録制
利用料無料

コミュニティースペース えんくる

〒214-0021 川崎市多摩区宿河原 6-26-24 フジビル1階
044-813-5248 月・水・金・土 10:30～18:00



人と人がつながり、子どもたち、若者たち、地域の人たちが生きやすいまちづくり(地域づくり)の拠点となることをめざしています。



川崎若者就労・生活自立支援センター ブリュッケ

JR南武線武蔵新城駅徒歩6分
居場所: 月・水・金 10:30～17:00
火・木は個別対応及び関係機関との会議等
brucke@tamariba.org

川崎市の福祉事務所及び生活困窮者支援事業所などで支援を受けている15～39歳の若者で、ひきこもり傾向にある若者が自立に向けて利用している登録制の居場所です。



●居場所支援
午前中は毎日昼食を作ります。ごはんが出来あがった頃には、一度みんなで集まって「ミーティング」で語り合います。午後はグループワーク。「名作を語る」「サイコローカー」となど語り系のワークもあれば、講師をお呼びして「太極拳」「お金カフェ」など身体と心を整える学びのワーク、物づくりのワーク、「やってみたい」と形にする外出企画など、多種多様な講座を行っています。

●個別対応の就労支援
スタッフと本人で定期的に面接を重ね、それぞれに合った生き方・働き方と一緒に考えています。必要に応じて、職場見学・体験、ハローワークでの求人情報収集、有償ボランティア体験、短時間・スポット就労など、少しづつ体験を重ねています。働き始めた若者の中には、休みの日に仕事を話しに来る人もいます。仕事を継続するための定着支援も大きな役割です。生活についての悩み事の相談や「えんくる」との連携による食支援も、若者たちを支える大きな取り組みとなっています。



●理事長
西野 博之

川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん・
川崎若者就労・生活自立支援事業ブリュッケ・コミュニティスペースえんくる
各事業総合アドバイザー・精神保健福祉士
1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりに携わる。
著書に『居場所のちから』(教育史料出版会)など。

●理事
相川 裕

弁護士・日弁連子どもの権利委員会幹事
東京弁護士会子どもの人権と少年法に関する特別委員会委員
共著に『Q&A 子どもをめぐる法律相談』(新日本法規出版)など。

天野 秀昭

NPO法人園庭・園外での野育を推進する会理事長
NPO法人日本冒険遊び場づくり協会評議員
冒險あそび場「羽根木ブレーパーク」の初代有給ブレーリーダー。
著書に『よみがえる子どもの輝く笑顔』(すばる舎)など。

石川 憲彦

精神科医
東京大学小児科助手、同精神神経科助手、マルタ大学客員研究員、静岡大学教授、
林試の森クリニック院長などを歴任。

佐藤 有樹

川崎若者就労・生活自立支援事業センター・ブリュッケ

椎野 修平

組織運営アドバイザー
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 特別研究員。
認定特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構副理事長。

鈴木 晶子

認定NPO法人フリースペースたまりば事務局次長 NPO法人パノラマ理事
生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事 臨床心理士
共編著『子どもの貧困と地域の連携・協働』(明石書店)など。

友兼 大輔

川崎市子ども夢パーク所長
認定NPO法人フリースペースたまりば事務局長

永田 佳之

聖心女子大学現代教養学部教育学科教授
国際理解教育学会常任理事、アジア学院評議員など。
著書に『変容する世界と日本のオルタナティブ教育』(世編書房)など。

長谷川 俊雄

白梅学園大学子ども学部教授 精神保健福祉士 社会福祉士
横浜市社会福祉職、愛知県立大学などを経て現職。つながる会代表理事。
共編著『引きこもりの理解と援助』(萌文社)など。

町田 恵美

公認会計士・町田公認会計士事務所

三瓶 三絵

川崎若者就労・生活自立支援事業センター・ブリュッケ センター長

松崎 運之助

元夜間中学教員
30年以上にわたり夜間中学勤務。山田洋次監督作品の映画『学校』協力者。
著書に『学校』(暁書房)、『ハッピーアワー』(ひとなる書房)など。

山下 英三郎

日本社会事業大学名誉教授 日本スクールソーシャルワーク協会名誉会長
ユタ大学ソーシャルワーク修士課程卒業。日本で初めてスクールソーシャルワークの
実践活動に従事。著書に『修復的アプローチとソーシャルワーク』(明石書店)など。

●監事

川崎 あや

一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表理事
1988年に神奈川の市民活動の情報センターとして設立したアリスセンターの事務局に
参加。以後、25年間、市民活動・NPO支援に携わり、現在は生活困窮者支援に従事。

だいじょうぶの種 いつしょに をまきませんか?



私たちの活動を 応援してください。

認定NPO法人フリースペースたまりばの趣旨に賛同し、
活動を応援してくださる個人・団体を募集しています。

私たちのあちらこちらに「だいじょうぶ」をたくさんつくりたい。

「だいじょうぶ?」と聞いかける声。「だいじょうぶ!」と安心させるひとこと。

私たちはそんなまちをつくるための「種(タネ)」をいっぱいいまいていきたいと考えています。

私たちと一緒に「だいじょうぶの種」をまいてもらえませんか?

私たちの活動を応援してもらえませんか?

くわしい応援方法は、右記QRコードよりアクセスしてください。



<https://www.tamariba.org/support/>



●会費の振込先

郵便振替口座 00200-2-57382
特定非営利活動法人フリースペースたまりば

●他の金融機関からも振り込めます

ゆうちょ銀行
○二九(ゼロニキユウ)店
当座 0057382
*支店名を「セ」で検索してください。

フリースペースたまりばは認定NPO法人です。
ご寄付いただいた金額に応じて、寄附金特別控除が受けられ、
最大約50%の還付を受けることができます。
また、相続により取得した財産の寄付や遺贈寄付の場合、
寄付した財産は相続税非課税となります。
法人の場合は、寄付額を損金として計上できます。

認定NPO法人
たまりば
フリースペース
<https://www.tamariba.org>

〒213-0022 川崎市高津区千年435-10 TEL:044-833-7562 FAX:044-833-7534